

事業報告

令和3年度 第1回大分県社会教育行政職員専門研修会

日時：令和3年9月7日（火）13：00～15：50

会場：大分県立図書館 視聴覚ホール 参加者21名

（市町村14名、県：7名）

<研修趣旨>

県下の生涯学習・社会教育の一層の振興を図るために、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村の社会教育行政職員等を対象として、その資質・能力の向上を図る。

多様性が求められる現代社会の中で、行政職員として必要とされる住民対象の学習機会について考える。

<研修内容>



【開会行事】開会あいさつ
大分県立図書館 館長 宮迫 敏郎



【研修1】講義：「行政職員を対象とした「やさしい日本語」講座」
講師：立命館アジア太平洋大学
言語教育センター准教授 布尾 勝一郎 氏

【研修1】講義：「行政職員を対象とした「やさしい日本語」講座」

講師：立命館アジア太平洋大学

言語教育センター准教授 布尾 勝一郎 氏

「やさしい日本語」の基礎と行政職員にありがちな表現についてご講義。

「外国人」＝英語話者、ではない。「やさしい日本語」には唯一の正解があるわけではないが、ノウハウはある。誰にとってもわかりやすい表現が大切。

【研修2】実践事例：「「やさしい日本語」を活用した新型コロナワクチン接種の案内」 ～大分市の取組～

発表者：大分市福祉保健部 大分市保健所 保健予防課

主任 清水 隆太郎 氏

「やさしい日本語」を用いての新型コロナウイルス・ワクチン接種の案内について事例発表。「やさしい日本語」使う目的や活用方法を中心とした発表で他市の参考となるものであった。



【研修 2】実践事例：「やさしい日本語」を活用した新型コロナワクチン接種の案内～大分市の取組～
発表者：大分市福祉保健部 大分市保健所 保健予防課
主任 清水 隆太郎 氏



【研修 2】実践事例発表後の協議
(左) 大分市 清水主任 (右) APU 布尾先生

<参加者感想>

- 本田明子先生のご講演とはまたちがう角度・視点からのお話をきくことができ、とても有意義な時間となりました。大分市の取組は、今後本市でいかに「やさしい日本語」を普及させていくかという上で、たいへん参考になるものでした。
- 「やさしい日本語」の必要性を改めて感じました。別府市においても、これをどういう風に広げられるか考えたいと思います。
- 行政文書に慣れすぎて、わかりやすい(文章)、わかりやすくするという視点を忘れていました。相手の立場にたって伝わるように、実例や身ぶり手ぶり、グッズ(実物)なども使ってやってみたいと思いました。
- 「やさしい日本語」は防災や医療など命や生活にかかわる場面で必要なものというイメージでしたが、観光やまちづくりデモ行かせるものだとわかりました。先生の外国人の方は地域の「資源」だということが印象に残りました。
- コロナの中、研修機会をもってもらいよかった。
- 清水さんの話は具体的で理解しやすかった。
- 実際に大分県内で暮らす外国人の方たちがどう感じているのか、どういうところに困りがあるのかということを知ることができるといいなと思いました。
- マイクの音量を大きくしてほしいかったです。